

令和 8 年 8 月 2 0 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
大宮国際中等教育学校	さいたま市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
大宮国際中等教育学校	https://www.ohmiyakokusai-h.city-saitama.ed.jp/education/

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
大宮国際中等 教育学校	https://www.ohmiyakokusai-h.city-saitama.ed.jp/introduction/school-assessment/	https://www.ohmiyakokusai-h.city-saitama.ed.jp/introduction/school-assessment/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている ☐ 一部、計画通り実施できていない ☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している ☐ 実施していない

＜特記事項＞

本校ホームページにて情報提供をしている。

3. 実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校では国際的な視野に立って多様性を理解して探究をし続ける「真の学力」の育成を目指している。「美術Ⅰ」においては、授業内の活動と提出課題の言語は全て英語で実施し、幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。「English Inquiry」においては、英語ネイティブ教員によるイマージョン教育により、各教科で学習する内容を英語で学ぶことで、深い知識を習得するだけでなく、異文化などの世界観を知ることができる。

「グローバル・スタディ」では、外国語の背景にある文化に対する理解を深めるとともに、我が国や地域の伝統・文化に誇りを持ち、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことを目指している。令和7年度は、授業で身に付けた能力を活用する場として、英語のみで活動を行う異文化交流体験や、社会的課題について英語で討論する英語ディベート大会、中学生や高校生等による「さいたま市模擬国連」など、授業で学んだことを実生活で生かす場や機会を数多く設定した。3年生ではニュージーランドへの語学研修も行っている。

『潤いの時間』『人間関係プログラム』では、身近な課題から地球規模の課題まで、それらの解決に向かって取り組む中で、互いにディスカッションし、協働で最適解を見つけられるよう人と接する際に必要となる基本的な姿勢・態度、相手の感情を読み取る方法等を体験しながら学習している。併せて、自分が所属する集団の中で「自己開示」「自己表現」をする大切さを体験することにより、集団への信頼感を醸成していく。また、『潤いの時間』『人間関係プログラム』の授業で身につけた、相手の立場を尊重しながら、円滑なコミュニケーションを図るスキルの定着を図るため、授業や行事等において、体験を通じた学びの機会を繰り返し設定する。

本校では「自らの頭で考え抜き、新しい価値を生み出す力」の育成を図っている。「LDT」は隔週土曜日で行われる、自分自身で探究的な学習をプロデュースする時間である。生徒は大学や研究機関などの外部団体から助言を得たり、自らの探究活動の成果を生徒や保護者、地域に向けて発表を行うことで、自らの探究から得た知識を広め、さらに深めていく活動をしている。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校評価アンケートの他者との違いを尊重できるという生徒回答が９５％を超える肯定的な回答となったことから、日常的な学びを英語というコミュニケーションツールを用いて行う機会を多く持つことにより、国際的な視野を持ち、多様な文化や価値観に触れることで、他者との違いを尊重することができる「Global mindset」を持った生徒が育成できていることがわかる。

「探究学習において知識を実社会と関連させて捉えようとしたか」という項目に対し、生徒の８８％以上が肯定的な回答をしており、『潤いの時間』『人間関係プログラム』や「LDT」で行われている探究学習が生徒の主体性の獲得と生涯に渡って成長を続ける姿勢を身につける Grit、Growth の学びに繋がっている。

４．課題の改善のための取組の方向性

全国的な傾向と同様に、本校においても児童生徒の体力低下や、いじめ・不登校の増加といった課題が見られる。社会の多様化に伴い、子どもたちが抱える課題は一層多様化・複雑化しており、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援が求められている。そのため、デジタル学習基盤を効果的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、誰一人取り残さない教育活動を一層推進していく。